

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2023年
11月15日(水)
第183号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

2023年秋期行動計画（案）を深める

東京自治労連保育部会 第2回拡大幹事会開催

東京自治労連保育部会は、「次世代育成とりわけ中核になる役員の育成」「会計年度任用職員の組織化」の2本を柱とする秋期行動計画を提起し、これをもとに各単組の取り組みの報告と交流をはかるため、今年度第2回目となる拡大幹事会を開催しました。

☆情勢学習

単組交流の前に、高橋副部長から情勢学習がありました。「不適切保育について、報道が繰り返されているが、市場化を推し進めてきた国と自治体に責任がある」と指摘。さらに少子化対策の目玉といわれている「こども誰でも通園制度」についての話がありました。

「こども誰でも通園制度」は、生後6か月～2歳までの未就学児を対象として、月の一定時間までの利用可能枠をつくり、就労要件を問わず柔軟に利用できる「通園給付」制度として創設する。認定はそれぞれ市区町村が行う。この制度には、直接契約制度の導入をすすめたい国の思惑が見受けられます。新たな給付制度を導入することで、「保育のバウチャー制、完全自由化」が目的ではないかと指摘されました。すべての自治体で実施すると決められているので、今から当局の動向を把握し、自分たちの要求を伝えておくことが必要である。と提案されました。

続く単組交流では、①組織強化について、②会計年度任用職員の組織化
③単組の運動課題、今後の取り組み。の3点を中心に報告をお願いしました。



☆各単組からの報告

◆世田谷：①②世田谷版の「保育を楽しもう会」の定期開催と「会計年度任用職員の学習会」を予定。③休憩取得の課題については、課長からのメッセージポスターとして「休憩取って午後の保育も頑張ろう」が休憩室に張り出された。休憩が取れない現場との認識に大きな乖離がある。また、各クラスに監視カメラがつけられた。事務所で視聴でき、大きなプレッシャーになっている。

◆江東：①若手組合員が参加しやすい学習会を計画し、保育大集会へも呼びかけていく。②江東版会計年度任用職員学習会の開催や、チラシ作成など、公共一般と一緒に取り組んでいく。③短期の男性育休が増えている。超過勤務手当についてアンケートを区職労が行った。検証し、再度保育園支部の詳細アンケートに取り組んでいく。

◆墨田：①歓迎会、東京集会など若手を誘ってつながりをつくっている。②墨田版会計年度任用職員の学習会を予定。③病欠増え年休が取れず、疲弊している。医ケア、おむつのサブスク状況把握し

ていく。

◆**足立**：①中年層の学習会を実施。参加が多かった。③看護師の働き方で、新たに看護師を早遅番に組み込むとの提案あり。医ケア児の就学後に小学校へも派遣されている。(これは止めさせる) 署名宣伝行動実施する予定。

◆**目黒**：①若手役員の交流飲み会は盛り上がった。全国集会へ誘っていく②高齢化に対応した取り組みしていく。③派遣保育士が揃わず、1年たりとも、欠員がなかったことがない。男性保育士採用が増え、施設整備が不十分。

◆**品川**：①新人歓迎会の実行委員でつながり作ってきた。各職場、疲弊していて組織強化の話に至らない。②会計年度任用職員は1年更新なので組合加入の雰囲気にならない。正規から会計年度任用職員になり、加入した人と繋がっている。③品川保門協と駅頭宣伝を予定。重要なニュースは個別に送るようにしている。

◆**文京**：①役員に若手が増えている。新人歓迎会開催し、少人数のグループ討議を行った。②学習会チラシを手渡しし参加が多かった。録画配信希望。③超勤学習会、財政パンフレットの学習会、300人規模のコンサートイベントを計画中。

◆**豊島**：①役員が増えた。学習会に参加した若手を誘っていく。②会計年度任用職員学習会に入れなかった人がいたので声かけていく。③予算人員要求に区長が同席し、サービス残業についての調査を行うよう要望した。職場懇談会を予定している。

◆**板橋**：①組合の意義伝えていきたい。保育を楽しもう会へ声をかけると参加が多い。引き続き誘っていく。②会計年度任用職員は、朝夕の補助員が多いが日中勤務も組織したい。③ICT 打刻での出退勤始まった。利点欠点など、実態調査を考えている。

◆**公共一般**：②雇用更新年限が近い。学習会ニュース、動画配信のお知らせ配布しながら各単組で加入の声かけをお願いしたい。③人勧で、勤勉手当の支給が可能になったが、各市区町村が最終決定するため、組合の取り組みが重要になる。

☆まとめ

最後に、塚田事務局長が、以下のようにまとめを行い、閉会しました。

*各単組それぞれ頑張っていると感じた。文京の経験詳しく聞きたい。中核の重要性が明らかになっている。中核が少ないことで、本来の組合活動ができない実態もある。

*会計年度任用職員学習会の動画配信を予定している。できるだけ早くと考えているが、各単組の実情に合わせ、それぞれが公共一般につなぐ。繋がった人たちと、どう繋がりをもつかが重要。学習会は、正規の意識改革にもなったのではないかな。

*「こども誰でも通園制度」は、各単組で、当局の考えや方針を把握していく。自治体は「やりたくないとしても、やらざるを得ない」ので、提案される前に、組合の方から情報提供を求めていこう。

*コロナ禍で小さくなっていた組合活動。できなかった活動を取り戻し、また新たな活動に踏み出していこう！

